三人娘・マニアックス
恋愛漫画家

「今水泳部は遠征に行ってるので、その間陸上部が借りてるんです」
「なるほどね…そういや蒔寺と氷室は？」
「何でも秘密の特訓をするとかで二人だけ居残りで練習してるみたいです」
「ふーん…じゃあ三枝は先に帰ろうとしてる所で先生に捉まって用事を言い付けられたんだな」
「そうなんです…だからプールに出戻りです」
「そりゃ災難だったな」
「そんな事ないですよ…衛宮君も手伝ってくれてるし」
「ま、コレくらいはね…ところであの二人がやってる特訓って、何なんだ？」
「それが…教えてくれないんですよ」
「へえ、三枝にも内緒なのか」
「……そういえば最近よく二人だけで何かやってるみたいなんです」
「…まあ蒔寺だけならともかく、氷室も一緒なら心配する事もないだろうが」
「うーん…でも、鐘ちゃんも…いつもと違うみたいで何だか…変って言うか」
「…違和感？」
「そう、ですね」

ふむ
良い感じに
身体が熱くなってきたな
ビクッ
はっ
鈴が
由紀っちの前で
ヤラシイ視線
送ってくるから
その時からずっと
熱くなってるよ
もみっ
そっか
そういえば
乳首もこんなに
ピンピンに
立ってるし
これは相当
興奮してるんだな
あっ
し…仕方ないだろ
こんなに
弄られたら
誰だって
感じて
ああ…やぁ…
乳首もクリトリスも
気持ち良くなっちゃうってばぁ…
まあ確かに
愛液も溢れて
陰核も勃起してしまうのは
当然だな
それにしても
競泳水着用に陰毛を剃ったお陰で
幼児の様にツルツルな局部が
逆にイヤらしいな
そ…それは分かるけど
だからってそんなに
擦られたら
力が抜けて
漏らしちゃうじゃんか
鈍いな楓
私はその漏らす様を
見たいから
こうしてるんじゃないか
ぬちっ

あっ 出ちゃうよ…
凄い恥ずかしいってのに
また鐘に見られちゃう…
ああ…
楓が出す所
じっくりと
見ていてやるよ
はぁ…
出ちゃった…
気持ち良さの証だ
恥ずかしがる事はないさ…
それに何と言っても
この時の楓の姿は
とても女の子らしくて
可愛いからね
見ていてドキドキするよ
うう…
そういうのが知って
恥ずかしいんだってば
鐘のバカー
そうやって
すぐに赤くなるのが
可愛いのさ
あたしばっか
恥ずかしいのって
何かズルい…
鐘のも見せてもらわないと
釣り合わないよ
それじゃ今度は
私が見せる番だな…
楓に見られながらとは
中々に興奮する…
うう…
鐘のスケベー
それじゃやっぱ
あたし一人
恥ずかしい
だけんじゃん…

そうは言うがな楓
私の方がお前の事を
思ってるんだよ
惚れた弱みだから
楓にはどんな事でも
してやれるのさ
そういう事言って
誤魔化そうとしてるんだ
いつもそうじゃん
捻くれた事を言う口は
塞いでやるか
あ
ディープキスにも
慣れたな
好きこそ物の上手なれとは
この事だな
仕方ないじゃん
実際にすげー
気持ちいいんだし
誰だ？

そこにいたのは案の定由紀香だった。
彼女なら、まあこの際二人の関係をばらしても良いかと思っていたし、
無理強いはしないにしろ、この性関係に巻き込んでしまうその好機だと
思ったんだが……

隣に、衛宮がいるではないか。
まあ、何と言うかこの想定外の状況。

どうしたものか。

いや、実は、プレイの一環として部室で致す時なんかに
「放課後あちこち歩き回ってる衛宮に、見つかったらどうする？」
なんて事を凛に想像させる事は、しばしばあった。

それは勿論、凛がバリバリに意識している、あの遠坂嬢の想い人だと
言う点が非常に大きい。
遠坂嬢と同じように、同じ相手とセックスする。
そのプレイでは、凛は面白いように絶頂しまくる。

まあ、多少やきもち的な感情を持つのは確かだ、
だが、実は私も、その妄想での自慰は既に定番となっている、

誰もが憧れ、そして劣等感を感じる遠坂凛。
その彼女が、身も心も曝け出し、獣のように、セックスするのだ。
興奮しない訳がない。

そして、その相手を許された男。
衛宮士郎に、抱かれる。
興奮しない訳がない。

だが、それは。
あくまで妄想の世界の話だ、
まさか、現実には出来まい……

……いや。
これは、現実だ。

「つーか、ありえないし！」

楓も、最初はそう言いながら抵抗をしていたが私が本気だと分かってからは、徐々に落ち着きを取り戻してきた。

「別に俺、誰にも話さないけど……」

衛宮はそう言ってくれたのだが、既にそんな話ではなくなっているのだった。

「衛宮に対しての完全な口止めというのが第一。だがそれだけではなく、あの遠坂楓を、衛宮が一体どのように抱いているのか――知りたい」

そう、私と楓の処女を条件に、口止めをする。と同時に、私たちの知的性的好奇心も一気に満たされるのだ。

……勿論、こういう状況にならない限りは、あのような妄想を実行しようなどとは、絶対に思わなかっただろうが。

そして、渋る楓は何とか宥めすかしながら、衛宮に確実に秘密を守るように約束を取り付け固まっている由紀香はとりあえず放置して。

私たちの処女を衛宮に捧げる準備にかかる。

……先ずは楓から。

衛宮はどのように楓を抱くのだろう……。

きつ過ぎず緩過ぎず
これでいいだろう
なぁ鐘
別にこんな事しなくっても
暴れたりしないけど
私だけなら
大人しくしてる
かもしれんが
衛宮相手だと
不安だしな
それに何と言っても
お前は縛られると
興奮するからな
ほら
新しい愛液が
出てきだした
それじゃあたし…
凄い変態みたいじゃん…
何を怒ってる
単なる事実だろう
うう…
勝手な事ばっか
言いやがって…
確かに
そっちの気がないと
ここまでは濡れないかもな
それじゃ
衛宮にそれが事実かどうか
確かめてもらおうか

へえ 中の方は薄くて綺麗なシェルピンクだ 処女膜もふるふるしてて
うぅぅ〜 そんなに詳しく説明されたら恥ずかしさ倍増だってのー
でも師寺のここめちゃ女の子っぽくて儚げで可愛いよ
…そんな可愛いとか言われても…困る
でも可愛いって言ったらトロッて液が垂れてきたけど
…ちょっとドキッとしただけだって
勃ってるクリトリス… 舐められたらどんな感じ?
気持ちいいよ… そのまま舌で舐め回しながらクリトリスを指でクリクリしてみて
はぁあ すごい感じちゃう 嫁よりも力強くて無理矢理犯されてるみたいでドキドキする
愛液がどんどん溢れてきた 感じてくれるのは素直に嬉しいな
…んっ こんな感じ?
バカ…

ぷしゃあああ
ンぉおおおお♥
はあ 衛宮に見られながら アソコ弄られながら お尻も弄られながら
いっちゃったよぉ
恥ずかしいのに すごい恥ずかしいのに
メチャクチャ興奮して メチャクチャいっちゃった…
藤寺 大丈夫か?
衛宮のアホー お前があんなに感じさせるから 潮噴きながらイッちゃったじゃんかー
ゴメンなー でもすげぇ可愛かったよ
だから もう泣くな
衛宮

由紀子も随分
気分を出してるようだな
身体全体が
紅潮してる
かっ
鐘ちゃん…
だ…駄目よ…
あぁ…そんな…
ほら…
楓の処女喪失を見ながら
由紀香も
気持ち良くなるといい…
力を抜いて
私に身を任せて
鐘ちゃん…
…優しくして…
衛宮…
優しく
してくれ…
蒔寺の中…
入っていく…
うん…
衛宮のが入ってくるの
感じる…
…分かるよ
もう少し
我慢してくれ
うん…
頑張るよ…
分かってる…

頑張った衛宮にご褒美だ…
処女二人の局部を開帳してやろう 大盤振る舞いだ
私は自慰は毎日しているが 器具は使わない まあ指程度は入れたが 正真正銘バージンの局部だ
はっ 恥ずかしいよ鐘ちゃん
そしてこれがまだ何も入った事がない由紀香の局部だ
自慰は陰核中心の所謂皮オナニーらしい
そっそんな事言わなくてもー
氷室と三枝の…局部…!
くぅっ… 驚きと興奮で
ドクッ
ドクッ
あっ… 熱いのがトクトクって注ぎ込まれてる…って
衛宮のアホ〜!
他の人のアソコ見ていくんじゃないよ 節操無し!
すまん…
出しちゃって…

今度はその…
ラブラブっぽく
って言うか…
やっぱ初体験な訳だし
ちょっとはロマンチックなのが
いいかなって思ったり…
了解…
だから自分のペースでいいから
無理しないように
ゆっくりしような
あ…ありがと
やっぱ衛宮は
その…ちょっと優し目だな
あはは
サンキュ…
ちょっとだけ
見直した
かも
お礼に乳首
可愛がってやろう
あん…ちょっと待って
その前に衛宮のおちんちん
入れちゃうから…
ん…こんな感じかな
さっき中に出した
精液のせいか
初めての時より
スムーズみたい
蒔寺の
小振りの胸も
可愛いな
やんっ♡

この体勢いいかも ギュッて抱き付きながら 好きなように動けるの
そうだな… 蒔寺の身体が密着して ドキドキする…
へへ… ほんとコレ 何だかいいな
それに クリトリスが 衛宮の身体に 擦れるのが すごい気持ちいい…
ああ…ああ… 段々中の擦れる感覚が 気持ち良く なってきたかも…
どうしよう あたしこれ 好きになっちゃった セックス 好きになっちゃうよぉ
いいよ蒔寺… これからも 一緒にしようか
うん… あっ… 衛宮…あたし あたし…っ
くっ… 蒔寺… 出るよ…

あ♡ぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ

昨日は汁に塗れながら
随分と楽しんだんだって？
まさか蒔寺さんと
竿姉妹になるとはね～
ビクッ
さっ
竿姉妹って!?
な…何の事だか
サッパリ分からんぞ
いきなりおかしくなったか
遠坂
…どうやら
外国で変な病気でも
拾って来たに違いない
きっとそうだ
!!!
…手首に拘束プレイの
残縄の跡がしっかりと
残ってるわよ？

三人娘・マニアックス